

平成 26 年 9 月 17 日現在

機関番号：22701

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23591721

研究課題名(和文) 病院内の自殺事故の予防プログラムの開発研究

研究課題名(英文) Development of educational program on prevention for hospital suicide

研究代表者

河西 千秋 (Kawanishi, Chiaki)

横浜市立大学・医学部・教授

研究者番号：50315769

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円、(間接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、病院内での自殺予防のために病院が執るべき措置と体制を検討し、医療スタッフのための教育プログラムの開発を目的に実施された。研修プログラムと教育資材が開発され、日本医療機能評価機構患者安全推進協議会との連携により主研修会とフォローアップ研修会を実施し、プログラムの効果測定を行った。主研修会は全7回で、99病院から170人が参加した。参加者の93.5%、86.5%にそれぞれ知識と態度の望ましい変化があり、教育プログラムへの満足度も高くプログラムの高い効果が示唆された。本研究には国際的に関心もたれ、研究期間中にカロリンスカ研究所国立自殺予防・精神保健研究センター等でセミナーが実施された。

研究成果の概要(英文)：The present study was conducted in order to establish the organizing and educational for preventing hospital suicide. During the study period, the educational program, and the educational tools (the text and the movies) were made. The educational course was launched in 2011 in collaboration with the committee in the Patient Safety Promotion, Japan Council for Quality Health Care.

So far, the course has been held 7 times, and 170 individuals from 99 hospitals have participated in it. Increased knowledge and attitude were observed in 93.5% and 86.5% of the participants, respectively. Most participants were satisfied with the course. This study raised interest, and the primary investigator was invited by the National Centre for Suicide Research and Mental Ill-Health in Karolinska Institutet in Sweden to have a presentation regarding the present study.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：精神神経科学

キーワード：メンタルヘルス 自殺予防 安全管理 病院管理 教育 チーム医療

## 1. 研究開始当初の背景

1998年の我が国の自殺者数の激増とその後の高止まりは、公衆衛生上の最大課題となっている。

自殺問題は、国民生活のあらゆる領域の問題であるが、自殺の危険因子のひとつに「慢性/進行性の身体疾患に罹患」、あるいは「疾病による身体機能の一部の喪失」があり(Bostwick, 2002; 高橋, 2006)、我が国において、総合病院、一般病院で受療・療養中の患者に多数自殺が生じていることが申請者らの調査で明らかにされている(岩下ら, 2006; Kawanishi ら, 2007)。海外では、医療施設の評価を行う第三者機関である米国の Joint Commission が、長年にわたり重大医療事故報告集計を報告しているが、この中で、自殺事故は常時2番目に多い事故であり、Joint Commission は、警告と提言を発信している

(<http://www.jointcommission.org/SentinelEvents/>)。このような事実がありながら、一方では、病院内の自殺事故を防止するための有効なプログラム、あるいは有効な職員研修プログラムについては、世界的にもこれまでに研究がなされていない。

## 2. 研究の目的

本研究では、期間内に以下の目的で実施された。

- 1) 病院内の自殺事故の実態において、焦点を当てるべき事項を抽出し、院内自殺予防に必要なタスクと病院職員のための自殺予防教育の要綱を作成する。
- 2) 1)に基づき、具体的に院内自殺予防タスク、及び自殺予防を目的とした職員(専門職、非専門職)向けの研修プログラムを作成した。
- 3) 2)で用いる研修教育資料を開発した。
- 4) 2)3)で開発された研修プログラムと資料を用いた研修会を開催し、研修を受講する病院職員(専門職、非専門職)を

対象に、自殺事故・自殺企図者に対する態度・知識・対応スキルを、介入(つまり、タスク実施と研修受講)の前後で測定し、介入プログラムを評価する。

- 5) 上記のタスクと研修プログラムを実施した病院について、年度ごとに、1)タスクの実施状況、2)研修の実施状況、3)院内自殺事故の発生状況、4)院内重大事故の発生状況をモニタリングし、過去のデータとの比較、介入を実施しない他医療施設群のデータとの比較を行い、介入の効果を明らかにする。
- 6) さらに、本研究では、自殺事故が不幸にも生じた後の職員のメンタルヘルス支援の在り方について調査を行い、支援プログラムを作成し、その効果を当事者への聴き取りから明らかにする。

## 3. 研究の方法

すでに明らかになっている病院内の自殺事故の実態(岩下ら, 2006; Kawanishi ら, 2007)を基に、重点項目を抽出した。そして、院内自殺予防に必要な病院職員のタスクとスキルを明確化し、予防教育要綱を作成した。

次に、これらをもとに、具体的な研修プログラムと教育資料を開発した。教育資料として、テキストと複数の動画コンテンツを作成した。そして日本医療機能評価機構・認定病院患者安全推進協議会との連携、協力により、病院に勤務する医療専門職、および病院管理者、医療安全管理に従事する職員を対象に、“病院内の自殺予防と事後対応のための研修会”を企画・実施した。研修会実施の際には、受講者を対象に、自殺・自殺企図者に対する態度・知識・スキルを介入前後で測定した。研修プログラムを実施した病院については、年度ごとに、自殺予防と事後対応の実施状況、院内自殺事故の発生状況、あるいは院内重大事故の発生状況の報告を依頼、あ

るいはヒアリングを実施した。

#### 4. 研究成果

##### 1) 研修プログラムの開発

すでに明らかになっている病院内の自殺事故の実態、先行研究、および世界保健機関等の資料の調査を踏まえ、病院内の自殺事故と事後対応のための研修プログラムを開発した。研修は、二日間コースで、自殺予防学、メンタルヘルス、精神疾患等に関する知識、自殺予防/事後対応に関連するコミュニケーション法や介入法、包括的な体制整備等から構成された(下表)。

研修プログラム概要	
1. 自殺予防学の基本 (講義)	6. 自殺予防のための介入 (講義)
2. ホットスポット対策 (講義/GW*)	7. 自殺念慮への対応 (講義/動画視聴/GW*)
3. メンタルヘルス・アセスメント (講義/動画視聴/GW*)	8. 自殺事故後の対応/ケア (講義/動画視聴/GW*)
4. コミュニケーションスキル・トレーニング(講義/動画視聴/GW*)	9. 自殺事故の法的側面 (講義)
5. がん患者の自殺(講義)	10. 予防と事後対応のための体制整備プラン作成(特に自院において)(講義/GW*)

\* GW: Group workの略で、ディスカッション、事例検討、成果発表、ロールプレイなどを含む

##### 2) 教育資料の開発

日本医療機能評価機構・認定病院患者安全推進協議会のもとに設置された院内自殺の予防と事後対応に関する検討会との一部協働により、上記研修プログラムに適合するテキスト(下図)、および動画コンテンツを作成した。



動画は、主に、自殺のハイリスク者への対応法と、自殺事故後の事後対応の2巻からなり、それぞれ、コミュニケー

ション法、介入法に関する複数のコンテンツから構成された。

##### 3) 研修会の実施

研究期間内に、7回の研修会と、2回のフォローアップ研修会を開催した。7回の本研修会には、延べ99病院から170人が参加した。性別は、男性34名、女性136名だった。年齢は、20代から60代まで分布し、30代が42名、40代が52名、50代63名だった。主たる職種としては、看護師が95名、安全管理者35名、心理士16名、精神科医師が13名で、他に精神科以外の医師、ソーシャルワーカー、社会福祉士、そして事務職等が少数名だった。研修実施の様子を下図に示した。



##### 4) 研修プログラムの評価

研修開始時には、「知識が十分でないと感じていた人」、「対応技術が十分でないと感じていた人」が、それぞれ151名(88%)、154名(91%)であり、対応にストレスを感じていた人が150名(88%)だった。参加者の知識・態度の改善は、それぞれ93.5%、86.5%と高く、自殺事故予防と事後対応に積極的になることができたという回答は90%以上と、当該プログラムの教育効果が高いことが示唆された。

##### 5) 研修プログラムの自殺企図行動低減等への効果

各年度で研修参加病院への調査が実施されたが、十分な数の回答を得ることができ

ず、本報告の時点では集計、解析を行うことができなかった。

#### 6) 展望

本研究により、わが国はもとより、世界的にも初の病院内の入院患者の自殺予防と事後対応のための研修プログラムと、関連教育資料が開発され、実用に供された。本研究を通じた実践には国際的にも関心もたれ、研究期間中に、スウェーデン・カロリンスカ研究所国立自殺予防・精神保健研究センターに招聘され、セミナーが実施され、また平成 26 年度に開催される予定の、欧州自殺・自殺関連行動学会でのシンポジウムも企画された。今後は、教育プログラムの実施の枠と研修拠点を拡大し、受講者の増加を図り、わが国医療施設における自殺予防・自殺事故の事後対応の取り組みを発展させていきたい。また、研修参加者の増加とともに、あらためて当該教育プログラムの効果を検証したい。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 15 件)

- 1) Nakagawa M, Kawanishi C, Yamada T, Sugiura K, Iwamoto Y, Sato R, Morita S, Odawara T, Hirayasu Y: Comparison of characteristics of suicide attempters with schizophrenia spectrum disorders and those with mood disorders in Japan. *Psychiatry Res*, 2011; 188: 78-82. DOI: 10.1016/j.psychres
- 2) Kaniwa I, Kawanishi C, Suda A, Hirayasu Y: Effects of educating local government officers and healthcare and welfare professionals in suicide prevention. *Int J Environ Res Public Health*, 2012; 9: 712-721. DOI: 10.3390/ijerph9030712
- 3) Doihara C, Kawanishi C, Ohyama N, Yamada T, Nakagawa M, Iwamoto Y, Odawara T, Hirayasu Y: Trait impulsivity in suicide attempters: a preliminary study. *Psychiatry Clin Neurosci*, 2012; 66: 529-532. DOI: 10.1111/j.1440-1819.2012.02379.x
- 4) Hirata M, Kawanishi C, Oyama N, Miyake Y, Otsuka K, Yamada T, Kishi Y, Ito H, Arakawa R: Training workshop on caring for suicide attempters implemented by the Ministry of Health, Labour and Welfare, Japan. *Psychiatry Clin Neurosci*, 2013; 67: 64, DOI: 10.1111/pcn.12004
- 5) 河西千秋, 佐藤直子, 岩本洋子, 土井原千穂, 平安良雄: 医学部・大学附属病院における職域メンタルヘルス支援活動。最新精神医学, 2011; 16: 149-153, URL: <http://www.seronejhou.co.jp/saishin13-6.html>
- 6) 須田顕, 河西千秋: 双極性障害と自殺。臨床精神医学, 2011; 40: 915-920, URL: <http://arcmedium.co.jp/>
- 7) 河西千秋: 自殺対策と精神保健。精神神経誌, 2012; 114: 546-547, URL: <https://www.jspn.or.jp/journal/index.html>
- 8) 河西千秋: 自殺対策における一般救急医療従事者と精神科救急医療従事者との連携。精神神経誌, 2012; 114: 572-576, URL: <https://www.jspn.or.jp/journal/index.html>
- 9) 河西千秋, 加藤大慈: 院内自殺事故の事後対応。看護管理, 2012; 22: 406-409, URL: <http://www.igaku-shoin.co.jp/journalPortal.do?journalPortalId=686>
- 10) 河西千秋: わが国の自殺予防対策の経緯と対策の方法論。作業療法ジャーナル, 2012; 46: 1494-1500, URL: <https://www.miwapubl.com/products/>

ist.php?category\_id=13

- 11) 竹島正, 稲垣正敏, 高橋幸とも, 河西千秋, 齋藤利一, 斉藤幸雄, 本橋豊, 矢永由里子, 松本俊彦, 川野健治, 勝又陽太郎: 自殺総合対策大綱見直しの低減について .精神経誌 ,2012;114:1428-1431 , URL: <https://www.jspn.or.jp/journal/index.html>
- 12) 河西千秋: うつ病のおはなし . 月刊糖尿病ライフ・さかえ , 2013 ; 53 : 9-14 , URL : <http://www.nittokyo.or.jp/patient/sakae/index.html>
- 13) 河西千秋: Topics Q&A : 自殺問題をめぐる現況と最新の取り組み .Depression Journal , 2013 ; 1 : 22-23 , URL: <http://www.m-review.co.jp/magazine/id/80>
- 14) 河西千秋: 自殺と死生観: 自殺と精神医学 .最新精神医学 ,2013;18:479-482 , URL: <http://www.serunjihou.co.jp/saishin13-6.html>
- 15) 河西千秋: 院内自殺の予防と事後対応のための研修会 .患者安全推進ジャーナル , 2013 ; 32 : 26-30 , URL: <https://www.psp.jcqhc.or.jp/modules/journal/>

〔学会発表〕(計3件)

- 1) 河西千秋(シンポジスト): 「私たちの国の自殺の現状と対策の流れ」. 第35回死の臨床研究会, 千葉, 2011, 10
- 2) 河西千秋(指定発言): 自殺急増以降の経年変化に関する再検討: 中高年男性に焦点をあてて. 第31回日本社会精神医学会, 東京, 2012, 3
- 3) Hirata M, Kawanishi C: Developing a website on mental health and suicide prevention by cooperation of experts

and medical students.

26th. World Congress of the International Association for Suicide Prevention, Beijing , 2011, 9 (一般演題)

〔図書〕(計11件)

- 1) 河西千秋: 救急外来におけるうつ病対策 (監修: 大野裕), うつ病治療ハンドブック, 金剛出版, 347-353, 2011
- 2) 河西千秋: 病院内の自殺事故 (監修: 河西千秋, 橋本迪生他), 病院内の自殺対策のすすめ方 (患者安全推進ジャーナル別冊), 認定病院患者安全推進協議会 ,6-7 , 2011
- 3) 河西千秋: 1次予防: ホットスポット対策 (監修: 河西千秋, 橋本迪生他), 病院内の自殺対策のすすめ方 (患者安全推進ジャーナル別冊), 認定病院患者安全推進協議会 , 24-26 , 2011
- 4) 河西千秋: 3次予防 (監修: 河西千秋, 橋本迪生他), 病院内の自殺対策のすすめ方 (患者安全推進ジャーナル別冊), 認定病院患者安全推進協議会 48 , 2011
- 5) 河西千秋: 自殺事故の実態とその影響 (監修: 河西千秋, 橋本迪生他), 病院内の自殺対策のすすめ方 (患者安全推進ジャーナル別冊), 認定病院患者安全推進協議会 , 60-61 , 2011
- 6) 河西千秋: スタッフケアの実践: 休養・休職 (監修: 河西千秋, 橋本迪生他), 病院内の自殺対策のすすめ方 (患者安全推進ジャーナル別冊), 認定病院患者安全推進協議会 , 83-85 , 2011
- 7) 河西千秋: わが国の自殺対策・自殺未遂者対策の経緯. (監修: 有賀徹、三宅康史). 救急医療における精神症状評価と初期診療: PEEC ガイドブック. へるす出版, 202-206 , 2012
- 8) 河西千秋: 自殺事故に関連した医療スタッフのケア. (監修: 有賀徹, 三宅康史). 救急医療における精神症状評価と初期診

療：PEEC ガイドブック．へるす出版，  
212-215，2012

- 9) 河西千秋：自殺予防対策．（監修：精神科治療学編集委員会）．気分障害の治療ガイドライン．星和書店，332-337，2012
- 10) 加藤大慈，河西千秋：自殺念慮／自殺企図．（監修：北川泰久，寺本明，三村將）．神経・精神疾患診療マニュアル（日本医師会雑誌，第142巻・特別号（2））．日本医師会，140-141，2013
- 11) 河西千秋：セーフコミュニティにおける自殺予防対策の実践：横浜市栄区．精神保健福祉白書2014年版（編集：精神保健福祉白書編集委員会）．中央法規出版，35，2013

〔産業財産権〕  
出願状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6．研究組織

### (1)研究代表者

河西千秋 (KAWANISHI, Chiaki)  
横浜市立大学・医学部・教授  
研究者番号：50315769

### (2)研究分担者

大塚耕太郎 (OTSUKA, Kotaro)  
岩手医科大学・医学部・講師  
研究者番号：70363819

(3)連携研究者 ( )

研究者番号：